

## 土 木 建 築

本県の県内道路は2万8千Kmで、舗装されているものは、国道では39.8%、県道では5.1%、市町村道では0.9%という状況である。あとは砂利道であるが、これも、本県にはこれが資材となる良質の河砂利や硬質の砕石に乏しく、加えて近年自動車の激増は、道路の消耗に拍車をかけているので、道路補修が思うにまかせない現状である。

このような道路の各所に、橋梁があるが本県には大きな河川、山岳がないので全国的には橋梁は少ない方である。それでも7530の橋梁があり、総延長53Kmで、内54%が屢々補修を要する木橋である。

本県の港湾については千葉港を除いては機帆船が入港できる程度の小規模のものばかりである。

次に住宅状況を見ると、住宅不足数は昭和26年に52000戸といわれていたが、その後、年間3000~4000程度の建築では「焼石に水」で、加えて、首都に隣接しているので、東京都民のベッドタウンとしての新しい街造りや、京葉工業地帯の造成が始まつているため、住宅の需要は増すばかりである。従つて、公営住宅の建設を初め、八千代台、江戸川台における団地の住宅建設等あらゆる施策が講じられている。

これら建設業の工事費は昭和31年には150億1千万円であつた。うち土木工事費が74億6千万円、建築費75億6千万円である。